

第15回通常総会

2009 年 3 月 4 日（水）

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

第15回通常総会次第

日時 2009 年 3 月 4 (水) 13:00～14:00

会場 鳥取大学 鳥取キャンパス 共通教育棟 A20 室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 2008 年度優秀論文賞, 第 14 回年次大会優秀発表賞の表彰
4. 議長選出
5. 2008 年度事業報告
6. 2008 年度決算報告、監査報告
7. 2009 年度事業計画提案
8. 2009 年度予算計画提案
9. 2009 年度評議員構成
10. 2009 年度役員構成
11. その他

- 学会誌の査読方式の変更

(変更案) 投稿論文に対し、編集委員長が担当編集委員を決定し、担当編集委員が査読者を 2 名割り当てる。2 名の査読者の間で、判定が分かれた場合には、編集委員会で採否の最終判定を行う。

12. 閉会

以上

2008 年度事業報告

1. 概要

言語処理学会の主要活動として論文誌「自然言語処理」の発行および年次大会の開催を計画通りに進めました。「自然言語処理」に関しては、通常号と共に特集号を企画・発行しました。このうち、論文誌「自然言語処理」において、掲載論文の質をいかにして保証するかの問題については、以前から議論してきましたが、今までの経験に基づき、査読の方法を変更することになりました。4 月以降は査読委員 2 名による平行査読となり、判定が分かれたときの最終判定は、編集委員会が行うこととなります。

また、第 14 回年次大会は、2008 年 3 月 17 日（月）から 21 日（金）まで、東京大学駒場キャンパスで開催しました。初日のチュートリアルに参加者は約 240 人、本会議の参加者は、750 名でした。また、併設の 2 件のワークショップには 170 名の参加者がありました。

その他、言語処理学会の 15 周年記念事業として 2006 年度に企画した「言語処理学事典」の出版計画については、今年度に入って原稿執筆が進みました。現在、ほぼ全体の原稿（大項目 5、中項目 37、小項目 290）が集まり、内容確認とゲラ刷り校正の作業を進めている段階です。執筆段階で明らかになった問題点については編集委員長（石崎俊前会長）を中心に調整を進めています。

また、若手研究者への支援活動として、シンポジウムの主催と学生の国際会議への参加支援を行いました。シンポジウムは、「NLP 若手の会第 3 回シンポジウム」と称するもので、9 月に熱海で開催しました。また、学生の活動支援は、長尾ファンドによるものです。2006 年度から、長尾先生のご寄付による The AFNLP-Nagao Fund を運用していますが、今年度は、シンガポールで行われた IJC-NLP の Student Session の議長からの依頼で、修士の学生 1 名の参加を支援しました。

そのほか、NICT が主催された「ユニバーサルコミュニケーションに関する国際会議 ISUC」と京都大学で開催された「ロボット聴覚システム HARK 講習会」に協賛しました。

2. 会員現況（2008年12月19日現在、増減は 2007年11月25日との比較）

正会員	791 (+46) 名	
学生会員	140 (−29) 名	
賛助会員	15 (+1) 組織	(17 口 (+1))
定期購読会員	49 (−1) 組織	(55 口 (±0))

3. 会誌の発行

- 15 巻1号(2008 年1月発行、通巻64号)
巻頭言、論文4編、会告
- 15 巻2号(2008 年4月発行、通巻65号)
巻頭言、論文5編、技術資料1編、会告
- 15 巻3号(2008 年7月発行、通巻66号)
巻頭言、論文6編、会告
- 15 巻4号(2008 年10月発行、通巻67号)
巻頭言、論文4編、会告
- 15 巻5号(2008 年10月発行、通巻68号)
巻頭言、論文7編、会告

4. 第14 回年次大会の開催

◇ 開催日： 2008 年 3 月 17 日(月)～3 月 21 日(金)

◇ 会場： 東京大学 駒場Iキャンパス 5号館, 13 号館 (東京都目黒区駒場 3-8-1)

◇ プログラム

[チュートリアル講演] (4件) 3月17日(月)

- 「話し言葉の音声認識」
李 晃伸(名古屋工業大学), 秋田 祐哉(京都大学)
- 「半教師あり学習による分類法: -現状と自然言語処理への適用-」
鈴木 潤(NTT CS 研), 藤野 昭典(NTT CS 研)
- 「語彙意味論に基づく言語資源の構築」
竹内 孔一(岡山大学), 黒田 航(NICT)
- 「言語コーパスとコロケーション」
石川 慎一郎(神戸大学)

[招待講演] (2件) 3月19日(水)

- 「動物発声から考える言語の起源」

岡ノ谷 一夫(理化学研究所)

- 「文系の頭, 理系の思考」

柴田 実(NHK 放送文化研究所)

[一般発表 講演発表] 3月18日(火)～20日(木) 発表件数 189件

[一般発表 ポスター発表] 3月18日(火)～20日(木) 発表件数 105件

[ワークショップ] 3月21日(金)

- 「教育を支援する言語処理」 発表件数14件

◇ 参加者数	事前申し込み	当日申し込み	合計
本大会参加者数	559	176	735 (+147)
チュートリアル	209	28	237 (+ 38)
ワークショップ	151	18	169 (－ 87)

(カッコ内は昨年との比較)

◇ 年次大会優秀発表賞

言語処理学会年次大会優秀発表賞は、年次大会において、論文の内容およびプレゼンテーションに優れたものと認められた発表論文に与えられる賞です。また、優秀発表賞のうち特に優れたものがあれば、最優秀発表賞として選定することが第11回からとりいられました。

第14回年次大会プログラム委員会は、選考委員会での審議に基づき、次に示す1件の最優秀発表賞ならびに4件の優秀発表賞を選定しました。

- 最優秀発表賞(1件)

D4-6 カーネル法を用いた意味的類似度の定義とブートストラップの一般化

○小町守 (NAIST), 工藤拓 (Google), 新保仁, 松本裕治 (NAIST)

- 優秀発表賞(4件)

D2-5 大規模ラベルなしデータを利用した言語解析器の性能検証

○鈴木潤, 磯崎秀樹 (NTT)

D5-7 単語に内在する情報量の偏在

○田中久美子（東大）

PC1-6 トーナメントモデルを用いた日本語係り受け解析

○岩立将和, 浅原正幸, 松本裕治（NAIST）

C1-7 類似性を用いない並列構造解析

○河原大輔（NICT）, 黒橋禎夫（京大）

◇ まとめ

参加者は700名を超えて、一昨年の第12回大会を上回る数となりました。第11回大会以降、首都圏開催かそうでないかによって差はありますが、参加者数は増加を続けていて、言語処理研究の盛り上がり的一端を伺わせます。今回、チュートリアルは1トラック、ワークショップもひとつでしたので、これら全体としての参加者は少なめになっていますが、それぞれには多数の参加を頂いていて、盛況でした。この参加者数増加を受けて、会計面では、大きな黒字収支となりました。十分な広さの会場の確保も懸案となっています。会場は全般に狭めで、特にポスター発表会場に十分な広さが確保できず、かなりの混雑となりました。また、今回、賛助会員となって下さっている組織の方を対象に非会員の参加費を会員価格に割り引きするという施策を実施し、好評を得ました。

(1) チュートリアル

過去2回、チュートリアルをテーマ別の2トラックで運営してきました。これにより講演数が6件に増え、参加者も増えるという効果がありましたが、聴講したい講演が重なる問題が生じました。このことから、今回はすべての講演を聞けるよう1トラックに戻し、またできるだけ幅広い話題を提供できるよう、1講演を1時間30分にして4講演としました。この結果、237名という多数の参加を得ることができました。

(2) プログラム冊子

前回、前々回同様、論文集のCD-ROM化と、製本コストの低減、また、広告掲載、企業協賛をお願いすることによる印刷費の補填を行った結果、健全な単独収支を実現しました。

(3) テーマセッション

文系と理系の枠を越えた議論を目的として11回大会から設けられています。このような目的で設定できるテーマは限られていることから、回を追うごとにテーマの設定が難しくなってきました。今回は、1つのテーマを異分野との議論・交流を考えた「バイオ・医療テキストを対象とした言語処理」としました。もう1つは「語と語の結びつきと意味」としました。

(4) 招待講演、特別講演

プログラム委員会で候補を出して投票した結果、岡ノ谷一夫氏（理化学研究所）と柴田実氏（NHK放送文化研究所）にお願いすることとなりました。

(5) ワークショップ

例年通り、Call for workshops をニュースレターで流してテーマ募集を行いました。この結果、今年は1件の応募があり、これを開催することとしました。なおワークショップの開催日に、同じ会場で第2回「機械翻訳技術のイノベーション」シンポジウムが開催されました。言語処理学会の会員が興味を持つ内容であることから時期と場所を合わせて開催することとなったものです。

5. ニュースレターの発行

2008年は、ニュースレターVol.15 No.1～No.4の4号を発行し、学会運営、大会案内、会議報告など会員への各種情報の提供を行いました。これらのバックナンバーは、学会ホームページでも公開しております。

6. 会議

◇理事会

計4回の理事会を開催し、入退会会員の承認、新任評議員の承認、事業計画、予算、論文賞選考、学会誌査読方式、年次大会の方針、年次大会優秀発表賞、関連学会等への協賛等について審議し決定しました。また、会費納入や学会誌作成、ニュースレター発行等の学会運営についても議論しました。

理事会開催:

第68回 (2008年3月18日、東京大学(駒場キャンパス))

第69回 (2008年6月27日、産業技術総合研究所(秋葉原))

第70回 (2008年9月16日、慶応義塾大学(三田キャンパス))

第71回 (2008年12月25日、慶応義塾大学(三田キャンパス))

◇編集委員会

2008年中に4回の編集委員会を開催し、自然言語処理に掲載する論文の審議をしました。2006年度に電子査読システム RACCO のサービスが停止したため電子メールを用いて迅速な査読に努めています。また、査読期限の厳守を目指して、査読者にインセンティブを与える施策を行うこととなりました。具体的には、2009年1月以降に投稿された論文を対象に、1ヶ月の査読期限を厳守した査読者には、5000円分の図書カードをお渡しすることとなりました。このような施策は、他学会では既に実施され、査読の迅速化に多大なる効果が確認されておりますので、当学会でも同様の効果が期待できます。

編集委員会開催:

第64回(2008年4月18日 産総研)

第65回(2008年7月25日 産総研)

第66回(2008年10月24日 産総研)

第67回(2009年1月20日 産総研)

英文論文アーカイブ(IMT)への論文掲載:

情報関連学会による国際的な電子ジャーナルとしての IMT (Information and Media Technologies) に、第3巻1〜4号掲載の英語論文5件を提供することとしました。

2008年度優秀論文賞の選考:

論文賞は、採録論文30件程度につき1件を目途に授与することになっています(平成18年1月の編集委員会で提案し、理事会で承認)。これに基づき、2008年に出版された自然言語処理15巻1号から5号に掲載された論文26件から1件を推薦することを目指して、以下の手続きで候補論文の選考を行いました。

- (1) 第1次選考として、期間中の各号に掲載された論文のうち、査読点数が5点満点で4点以上の論文14件を対象に、1論文あたり2名の編集委員が読み、10点満点で採点しました。
- (2) その結果、高得点を得た上位3件の論文を第2次候補論文とし、編集委員全員が4点満点で採点しました。
- (3) その最上位の論文2件について審議し、表記論文を論文賞候補に推薦することに決しました。

以上

2009年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要な活動として、論文誌「自然言語処理」を定期的に発行するほか、特集号の企画・発行を行い、年次大会を開催します。また、これらの論文誌や年次大会で発表された研究の内容を広く内外に流通させるとともに、会員の自然言語処理の研究発表を支援することも本学会の重要な役割と考え、活動を進めて参ります。

研究発表を支援する活動としては、昨年同様、若手の会が企画したシンポジウムの支援や長尾ファンドを活用した国際会議の支援を行います。特に、国際交流に関しては、いままで、特にアジア・太平洋地域の関連学会の連合組織 AFNLP の活動への協力を行ってきました。今年度も予算の許す範囲で、このような研究活動の支援を継続して実施します。

言語処理学会の 15 周年記念事業として企画した「言語処理学事典」の出版計画については、すでに校正段階にありますが、索引や囲み記事の編集など、まだ調整すべき事項も残っております。これらの作業もなるべく早くすませ、年内の早い時期での完成を目指します。

当学会では、収益の拡大と節約を旨とする皆様のご努力により、活動資金に余裕が生まれてきました。今後は、会費の引き下げ、理事会や編集委員会などの会議での旅費や弁当の支給などについても検討し、収支のバランスのとれた学会運営を目指していく予定です。

2. 会誌の発行

通常号のほか、特集号を企画しています。論文誌の電子化に関しては、JST の平成 20 年度電子アーカイブ対象誌に当学会誌が選定されたことから、Journal@rchive を通じた電子アーカイブ化を進めます。

◇第17巻第1号(2008年1月10日発行、通巻69号)

◇第17巻第2号(2008年4月10日発行予定、通巻70号)

◇第17巻第3号(2008年4月10日発行予定、通巻71号)「教育・学習を支援する言語処理」
特集号

◇第17巻第4号(2008年7月10日発行予定、通巻72号)

◇第17巻第5号(2008年10月10日発行予定、通巻73号)

その次の特集号は“Empirical Methods for Asian Language Processing”の予定です。2008年12月にベトナムで行われた 10th Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence

(PRICAI 2008) の同名の併設ワークショップでの発表論文からの投稿を期待して、論文の募集を始めます。特集号の発行は 2010 年の予定です。

3. 第15回年次大会の開催

日時： 2009 年 3 月 2 日(月)～3 月 5 日(木)

会場： 鳥取大学 鳥取キャンパス

- ◇ 3 月 2 日(月) チュートリアル (10:45～18:30)
- ◇ 3 月 3 日(火) 本会議 第 1 日 (9:30～18:30)
- ◇ 3 月 4 日(水) 本会議 第 2 日 (9:00～18:00)
 - 総会 (13:00～14:00)
 - 招待講演 (14:00～16:00)
 - 懇親会 (18:30～)
- ◇ 3 月 5 日(木) 本会議 第 3 日 (9:00～18:00)

4. ニュースレターの発行

原則として、前年と同様の回数と内容で発行する計画で、学会メーリングリストを通じて電子配送します。これらは学会ホームページにバックナンバーとして公開します。また、理事会で審議された事項の公開について検討します。

5. 会議

◇総会

通常総会を 2009 年 3 月の年次大会で開催します。

◇理事会

昨年度同様に開催します。予算のゆとりを会員に還元する施策・事業、論文等の電子的公開、年次大会の開催、他学会との連携などについて審議します。

◇評議員会

総会に合わせて2009年度第 1 回会合を開催します。学会全体の活動の活性化に向けた施策、関連する研究分野との交流の促進などについて議論します。

◇編集委員会

編集委員会を会誌の発行に合わせて開催し、迅速かつ充実した論文審査を目指して、より良い査読の方法を検討します。具体的には、2名の査読者による並列査読の導入を検討します。管理の再電子化についても引き続き検討します。

6. 2009年度評議員構成

2006－2009 年度評議員		2008－2011 年度評議員	
氏名	所属	氏名	所属
相澤 彰子	NII	天野 真家	湘南工科大
赤峯 享	NEC	池田 尚志	岐阜大
荒木 健治	北大	乾 健太郎	奈良先端大
伊東 秀夫	リコー	梅村 恭司	豊橋技科大
宇津呂 武仁	筑波大	大塚 裕子	計量計画研
遠藤 勉	九工大	落谷 亮	富士通
梶 博行	静岡大	小原 京子	慶大
工藤 孝史	札幌大	北村 美穂子	沖電気
佐藤 理史	名大	竹内 孔一	岡山大
白井 清昭	北陸先端大	田中 久美子	東大
高山 泰博	三菱電機	徳永 健伸	東工大
田中 英輝	NHK	新田 義彦	日大
中澤 恒子	東大	丹羽 芳樹	日立
那須川 哲哉	日本IBM	林 良彦	大阪大
古瀬 蔵	NTT	平川 秀樹	東芝
		フランスス ホント [*]	NICT
		山本 和英	長岡技科大
計 15 名 (50 音順)		計 17 名 (50 音順)	

7. 2009 年度役員構成

役員名	氏名	所属
会長	池原 悟	鳥取大
副会長(総編集長兼務)	橋田 浩一	産総研
理事(編集委員長)	中岩 浩巳	NTT
理事(編集担当)	東条 敏	北陸先端大
理事(編集担当)	荻野 綱男	日大
理事(編集担当)	隅田 英一郎	ATR
理事(事業担当)	井佐原 均	NICT
理事(事業担当)	加藤 恒昭	東大
理事(事業担当)	黒橋 禎夫	京大
理事(渉外担当)	馬 青	龍谷大
理事(渉外担当)	奥村 学	東工大
理事(渉外担当)	柏野 和佳子	国語研
理事(財務担当)	斉藤 博昭	慶大
理事(総務担当)	森 辰則	横浜国大
理事(総務担当)	村上 仁一	鳥取大
		(以上 15 名)
監事	仁科 喜久子	東工大
監事	樽松 明	早大
		(以上 2 名)
顧問	長尾 眞	国立国会図書館
顧問	田中 穂積	中京大
顧問	飯田 仁	東京工科大
顧問	辻井 潤一	東大
顧問	島津 明	北陸先端大
顧問	中川 裕志	東大
顧問	石崎 俊	慶大
		(以上7名)
会誌編集委員会 2008－2009 年度		
総編集長	橋田 浩一	産総研
編集委員長	中岩 浩巳	NTT

